

国際会議報告

国際会議印象記

第5回国際圧力容器工学会議*

横川清志**

第2回日方向学術交付金により、ASME主催の第5回 International Conference on Pressure Vessel Technology (ICPVT) に出席させていただいたので、会議の印象について報告する。

ICPVT は、圧力技術に関する最近4年間にわたる研究及び開発の成果を総括すると共に、ASME コードの問題点を討議して、今後の圧力技術開発の指針にすることを目的としている。本大会は第5回目であり、過去の大会は、第1回は1969年にDelft (オランダ)、第2回は1973年にSan Antonio (アメリカ)、第3回は1977年に東京 (日本)、第4回は1980年にLondon (イギリス) でそれぞれ行われてきた。

本大会は1984年9月9日～14日、San Francisco (アメリカ) の Hyatt Regency Hotel で行われた。時差ぼけのままこをこすりながら、その上初めての独りの海外旅行なので、やつとの思いで会場のホテルにたどり着いた。このホテルは非常に大きく、しかも建物の中心に高い大きなホールのある特殊な構造をしていた。ホールの中のレストランでは連日室内楽の生演奏を夜更けまでやっており、またホールには映画で見るとようなイルミネーションの輝く5基のエレベーターが昇降していた。この壮大さにしばし感心した。このホテルは全体としてコンピュータによつてシステム化していると共に、安全上の体制もしつかりしているが、宿泊料の高いこと!

大会は9月10日の Welcoming Statements において、大会組織委員長 Dr. MARCAL, ヨーロッパ委員会委員長 Dr. NICHOLS 及び日本委員会委員長 金沢武先生が順にあいさつを行つた。続いて、Plenary Session では渡辺十郎氏 (日本製鋼所) をはじめ3件の講演があり、次に、Memorial Lecture では Dr. NICHOLS による Development in Pressure Vessel Technology という題目の圧力技術の発展と展望についての講演があり、深い感銘を与えた。

研究発表は、①General Design, ②Stress Analysis, ③Material Behavior, ④Manufacturing Aspects, ⑤Quality and Reliability Improvements の5分野に分かれ、9月11日～13日の間に、2のPanel Discussion と23のTechnical Session が行われた。Panel Discussion は全部で9件の報告があつた。Technical



写真 大会の Banquet における大会組織委員長 Dr. P. V. MARCAL 夫妻と日本人参加者 (大会組織委員長夫妻：後列中央)

Session は全部で105件の報告があり、内訳は、日本 (32件)、アメリカ (20件)、中国 (10件)、イギリス及びフランス (各9件)、イタリア (6件)、西ドイツ (5件) の順に日本の報告が最も多かつた。日本の発表者は、筆頭者によると、企業関係者26件、官公庁及び大学関係者各3件で、日本の技術の国際的な力を示しているものと考えられる。一方、アメリカで開催されるわりにはアメリカの報告が少なく、特に材料関係ではほとんど無く、アメリカの材料の研究者と深い討論が十分できなかったのは残念であつた。

大会中日の9月12日の夕方には Banquet が行われ、各国参加者と歓談した。会場は港の倉庫らしき建物を改造した Western 風ホールで簡素な建物であつた。ところが、特にスピーチもなく盛り上がり欠ける上、立食式であり、以前の ICPVT に参加したことのある人々から不満の声が聞かれた。写真は Banquet の一コマで、大会組織委員長夫妻 (写真後列中央) と日本人参加者 (筆者は後列委員長の右隣) である。

大会には、中国より中国圧力容器学会の柳曾典理事長代理をはじめ華東化工学院璩定一教授等多数参加していたが、発表者には比較的年輩の人が多く、30才代はあまり見られなかつた。しかし、本大会で次回第6回大会を1988年に北京 (中国) で開催することに決まり、一同意気がついていた。

大会のプロシーディングは、Discussion を含めて全3巻が、1985年早々にも刊行される予定である。本大会関係の連絡先は：The American Society of Mechanical Engineers, 345 East, 47th Street, New York, NY 10017, USA.

本大会の会議出席にあつては、日本鉄鋼協会日方向学術交付金による援助をいただいた。

* 本国際会議出席にあつては、日本鉄鋼協会日方向学術振興交付金が賦与されました。

** 中国工業技術試験所